

2. 事業の目的と概要	
<p>(1) 事業概要</p>	<p>当事業は、2017年12月から2020年11月の3年間で、アルタ・ベラパス県のラ・ティンタ市とチュクル市の各5コミュニティ（計10コミュニティ）でジェンダー平等を促進するため、女子とその保護者、男子、小学校教師、コミュニティリーダーや地方行政官を対象にジェンダートレーニングと啓発活動を実施する。また、初潮を迎えた後の女子も含めたより多くの女子が教育を受ける権利が享受できるように、対象校に適切な衛生設備を整備し、施設維持管理トレーニングも合わせて実施する。第2年次の今期は、前年のラ・ティンタ市での学びを活かしながら、チュクル市でトレーニングと啓発活動を展開する。ラ・ティンタ市では、前年にトレーニングを受けた女子と男子（計325人）に対し、ジェンダー指導者育成を目的にさらなるトレーニングを実施し、学校とコミュニティでのジェンダー格差是正に向けた活動や啓発活動を強化する。また、両市の保護者代表とコミュニティリーダーに啓発活動トレーニングを実施し、コミュニティ内外でジェンダー平等推進のメッセージを広げていく体制作りに着手する。</p> <p>This project promotes gender equality in 10 communities in 2 cities (La Tinta and Tucurú) in Alta Verapaz. During 3 years (December 2017 to November 2020), the project provides gender trainings and awareness raising activities to girls and their parents, boys, teachers, community leaders and local authorities in the target area. The project constructs gender-friendly WASH facilities and provides its maintenance training in 10 primary schools to ensure more girls including those who have their first menstruation continue going school free from anxiety or stress. In Year 2, gender trainings to various stakeholders will be conducted in Tucurú. In La Tinta, leadership training will be conducted to 325 girls and boys trained in Year 1 to strengthen gender equality promotion and sensitisation in schools and communities. In addition, parents representatives and community leaders in both cities will be trained on sensitisation and advocacy to launch a structure establishment of disseminating gender equality messages inside and around the communities.</p>
<p>(2) 事業の必要性(背景)</p>	<p>地域・民族間の貧富の格差が拡大しているグアテマラにおいて、アルタ・ベラパス県は最も貧しい県で（UNDP 2014）、その中でも事業対象地のラ・ティンタ市およびチュクル市は絶対的貧困率が60%を上回る最貧困地域の一つである（グアテマラ国家統計局）。両市の住民の80%以上は先住民族ケチ族に属し、公用語のスペイン語での会話や読み書きが覚束ない人も多い。山岳部という地理的条件に加えスペイン語能力の低さが社会的サービスへのアクセスを困難にし、貧困度を上げる一因となっている。行政による支援は極めて少なく、現地で活動している国際NGOはPlan Internationalだけで、取り残された地域になっている。</p>

同県は「マチスモ」という伝統的な男性優位の考え方が根強い。小学校高学年になると、親の意向で農作業や物売り、家事手伝いなどのために中途退学を余儀なくされる女子も多い。また、対象地域の小学校の多くは衛生設備が未整備（老朽化、設備数が不足、男女共有など）で、小学校高学年の生徒、特に初潮を迎えた後の生徒が中途退学する要因となっている。中途退学した女子は、知識や発言力、自身の将来を考える能力を育む機会が奪われ、早すぎる結婚や出産を強いられる状況を生んでいる。さらに、教師はジェンダー平等に関する知識が乏しいため、女子生徒が自身の権利を認識し、自己肯定感を持てるような指導ができていない。このような状況から、より多くの女子が安心して通学し、知識や発言力、自身の将来について考え決断する能力を身に付けられるような環境を作っていく必要がある。

第1年次は、ラ・ティンタ市で対象別にジェンダートレーニングを順次実施している。女子クラブは定員を超す参加希望者があり、学校やコミュニティで模範となる女子が増えることはプラスと判断し、対応可能な範囲で希望者を受け入れた（175人予定から200人に増加）。第2年次のチュクル市でも同様に対応する予定である。トレーニング参加者は概ね積極的に参加している。当事業開始前は通学していなかった女子が、数人復学する動きが既に出てくるなど、トレーニング参加者による家やコミュニティでの情報共有・発信の効果が少しずつ現れている。2018年5月時点で最終校正中の教師向けのトレーニングマニュアルは、当事業実施中および終了後に対象校10校の教師が使用するほか、他校への活動展開時に増刷して活用する予定である。衛生設備建設（3校、計5棟）は5月から着工している。衛生環境の改善により、生徒たちが安全で衛生的な学校生活を送れるようになり、通学する生徒の数（特に女子生徒の数）が増えることも期待できる。なお、第1年次はトレーナーや設備建設業者の入札から契約手続き完了まで若干時間を要した。第2年次は第1年次の経験を活かし、入札手続きをより円滑に進め、トレーニングや建設工事の開始時期を1ヶ月前後早める。また、2019年6月に総選挙が予定されているため、選挙時期を考慮した活動日程を調整・設定する。

(参考資料 1. 対象地域写真 参照)

●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性

当事業の活動は「目標4：すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する(4.1、4.5、4.a)」および目標5：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児の能力強化を行う(5.1、5.2、5.3)」の達成に貢献する。

	<p>●外務省の国別開発協力方針との関連性 当事業は、先住民族が多く居住する地域において女子の学習環境改善を目的に実施することから、外務省のグアテマラ国別開発協力方針 3. 重点分野（中目標）（1）「貧困地域の社会・経済開発」に合致する。</p> <p>●「T I C A D V Iにおける我が国取組」との関連性 該当なし</p>
(3) 上位目標	アルタ・ベラパス県ラ・ティンタ市およびチュクル市で女子にやさしい学習環境が整い、住民のジェンダー平等の意識が高まる。
(4) プロジェクト目標	対象 10 コミュニティにおいて、小学校 10 校の衛生設備の整備および生徒、教師、住民や地方行政官を対象としたジェンダー平等の促進・人材育成を通じ、より多くの女子がジェンダー平等で安全な環境で教育を受けられるようになる。
(5) 活動内容	<p>1. コミュニティにおける能力強化 (参考資料 2. 対象校基本データ、 参考資料 3. トレーニングリスト 参照)</p> <p>1-1 ジェンダートレーニング 1-1-1 女子クラブ (チュクル市) 対象 5 コミュニティから 11-15 歳の女子 35 人 (計 175 人) を選び女子クラブを設立し、全 10 回 (各 6 時間) のトレーニングを各コミュニティで実施する。女子クラブには、学校に通っている女子と学校に通っていない女子の両方を含める。トレーニングは、当団体が開発したマニュアルを使い、「ジェンダー (社会的性差) とは何か」といった基礎から学び、受講者が自らの権利を知り、自尊心を高めることを目的とする。最終回では、自分の将来を考える機会を提供し、目標を設定できるよう導く。</p> <p>1-1-2 保護者 (チュクル市) 1-1-1 の女子クラブメンバーの保護者計 175 人に対し、ジェンダーに関する基礎知識、女の子の権利について、全 4 回 (各 3 時間) のトレーニングを各コミュニティで実施する。保護者が女子の可能性や権利を理解し、娘の目標達成をサポートする存在となるよう啓発する。</p> <p>1-1-3 教師 (チュクル市) 5 つの対象小学校の教師は、現在ジェンダートレーニングを受けていない。各校校長への対話を通して、ジェンダー平等の重要性を知ってもらい、協力を仰いだ後、第 1 年次に当事業で開発した教師向けのトレーニングマニュアルを用いて、教師 30 人に対して全 6 回 (各 6 時間) のトレーニングを実施する。教師が日々の学校での指導にジェンダーの視点を取り入れ、女の子の権利が侵害されないよう日常的に気を配ることができるよう促す。また男子対象のジェンダートレーニングを主体的に指導できるよう育成する。</p>

1-1-4 男子 (チュクル市)

対象 5 コミュニティから 10-14 歳の男子計 125 人を対象に、全 10 回 (各 4 時間) のトレーニングを各コミュニティで実施する。基礎的なジェンダーについての知識を身に着け、ジェンダー平等を目指す「肯定的な男らしさ」(女性への優しさ、礼儀正しさなどを包摂している男性)について考えられるように育成する。なお、学校におけるジェンダー平等に対して男子生徒の理解を促すため、教師はトレーナーとして積極的に参加する。

1-1-5 コミュニティリーダー (チュクル市)

コミュニティリーダー計 30 人 (各コミュニティ 6 人) を対象に、全 3 回 (各 4 時間) のトレーニングを実施する。コミュニティリーダーがジェンダーに関する基礎知識を身に着け、地域の人々に女の子の権利を守るよう働きかける存在となるよう育成する。

1-1-6 地方行政官 (ラ・ティンタ市、チュクル市)

対象 2 市の教育担当官はじめ地方行政官計 30 人 (各市 15 人) を対象に、チュクル市では全 3 回 (各 3 時間)、ラ・ティンタでは全 2 回 (各 3 時間) のトレーニングを実施する。地域におけるジェンダー格差の問題点について地方行政官の理解を深めるとともに、女の子の権利が守られる地域づくりの実現を目指す。

【当初計画からの変更箇所】

当初計画では、第 2 年次はチュクル市の 15 人のみを対象に実施する予定だった。しかし、第 1 年次から活動を実施しているラ・ティンタ市の地方行政官 15 人に対しても、全 2 回 (各 3 時間) の復習トレーニングを実施する。

理由：チュクル市での活動が中心となる第 2 年次も、ラ・ティンタ市の行政と連携して活動していく必要がある。2019 年 6 月の総選挙の結果も考慮しながら、選挙後の新体制下でもジェンダー平等を促進していく環境を作るためには、第 1 年次の復習トレーニングを実施して行政官の理解をより根付かせるとともに、良好な連携関係を維持する必要があると判断した。

1-2 ジェンダー指導者養成トレーニング**1-2-1 女子生徒、男子生徒 (ラ・ティンタ市)**

第 1 年次に 1-1 ジェンダートレーニングを受けたラ・ティンタ市の女子クラブメンバー (11-15 歳) および男子 (10-14 歳) のうち、第 2 年次の時点で学校に通っているメンバー (各コミュニティ 43 人、計 215 人想定) に対し、リーダーシップ、発言、発信力の向上を目指す全 4 回 (各 4 時間) のトレーニングを各校で実施する。受講者が、ジェンダー格差是正を目的に学校レベルでの活動やイベントを計画・実施し、学校での活動・イベントを通じて周囲へジェンダー平等促進のメッセージを拡散できるよう指導する。また、後述 1-2-2 のメンバーと協力しながら地方行政に提言したりできるよう指導する。

【当初計画からの変更箇所】

当初計画では、第1年次にジェンダートレーニングを受けた女子クラブメンバーから代表者20人を選抜し、県庁所在地コバン市で全2回(各2日半の合宿形式)のトレーニングを実施する予定だった。しかし、第1年次にトレーニングを受けた325人(女子クラブ200人と男子125人)に対し、第2年次時点で通学している子どもは学校ベースでの活動、通学していない子どもはコミュニティベースでの活動を担う対象として、指導者養成トレーニングを実施することに変更した。

理由：参加者の身体的負担、活動の効果と持続性の3点を考慮した。コミュニティの親元から離れて都市部に片道2～3時間移動しホテルで泊り込みのトレーニングを行うのは、11-15歳の参加者への身体的負担が大きい。また、年2回選抜メンバーに実施するよりも、第1年次にトレーニングを受けた子どもたち325人が学校やコミュニティベースで継続的に啓発活動する環境を作るほうが、周囲への知識の定着度も期待でき、持続性の観点からも望ましいと判断した。

上記変更に伴い、指標「女子クラブ受講者がジェンダー格差を改善するための提言書を地方政府に提出する」の対象を「ジェンダー指導者トレーニング受講者がジェンダー格差を改善するための提言書を地方政府に提出する」に変更する。

1-2-2 通学していない女子と男子 (ラ・ティンタ市)

第1年次に1-1 ジェンダートレーニングを受けたラ・ティンタ市の女子クラブメンバーおよび男子のうち、第2年次の時点で学校に通っていないメンバー(各コミュニティ22人、計110人想定)に対し、リーダーシップ、発言、発信力の向上を目指す全5回(各4時間)のトレーニングを各コミュニティで実施する。受講者が、ジェンダー格差是正を目的にコミュニティベースでの活動やイベントを計画・実施し、それらの活動を通じてジェンダー平等促進のメッセージをコミュニティの中で拡散できるよう指導する。また、前述1-2-1のメンバーと協力しながら地方行政に提言したりできるよう指導する。

【当初計画からの変更箇所】

前述1-2-1記載のとおり。

1-3 学校改善計画の策定指導 (ラ・ティンタ市、チュクル市)

グアテマラの小学校では毎年度、教師と保護者が話し合い、より良い学校運営のための計画を立てるが、当事業開始前までジェンダーに関する内容が入られたことはない。両市の各対象校の教師(ラ・ティンタ市38人、チュクル市30人)を対象に年2回のトレーニングを実施し、「学校内にジェンダーによる差別がないか」などジェンダーの視点を提案し、改善計画に含められるよう支援する。これによって、学校内のジェンダー意識が高まり、女子が快適に過ごせる学校づくりがなされる。なお、第2年次から実施するチュクル市では各6時間のトレーニングを行うが、第1年次から開始しているラ・

ティンタ市では第 1 年次に策定した学校改善計画を見直すため各 3 時間に収める。

1-4 ジェンダートレーニング教材の製作指導

第 3 年次実施予定

2. コミュニティ啓発活動

2-1 啓発活動トレーニング

(参考資料 3 トレーニングリスト 参照)

2-1-1 ジェンダー平等促進員 (ラ・ティンタ市、チュクル市)

1-1-2 ジェンダートレーニングを受けた両市の女子クラブメンバーの保護者の中から 20 人 (各市 10 人) の代表者を促進員として選定し、啓発活動を担っていけるようにトレーニングを各市で実施する。それによって、促進員はコミュニティ内外でジェンダー平等推進のメッセージを拡散・定着に貢献する。

2-1-2 コミュニティリーダー (ラ・ティンタ市、チュクル市)

対象 10 コミュニティのリーダー計 60 人 (各市 30 人) を対象に各市でトレーニングを実施し、女子クラブ、ジェンダー平等促進員の活動を支え、地域行政へジェンダー平等への働きかけができるよう育成する。なお、女子クラブ、ジェンダー平等促進員とともに国際ガールズ・デーイベントをより充実したものにする役割を果たせるようにする。

2-2 地域対話交流

第 3 年次実施予定。

2-3 国際ガールズ・デーイベントの開催 (ラ・ティンタ市)

10 月 11 日の国際ガールズ・デーの前後に、ラ・ティンタ市で啓発イベントを開催する。1-2-1 または 1-2-2 の女子クラブメンバー代表によるスピーチ、クイズ、ダンスや歌などを織り交ぜ、住民が集まり、楽しみながらジェンダーについて学べる内容とする。また、1-2-2 ジェンダー指導者養成トレーニング受講者が中心となって作成する啓発用チラシを、地域に根強く残る男性優位の規範を考えるきっかけとなるものとして配布し、ジェンダー配慮のある地域づくりに貢献する。

2-4 啓発キャンペーンの実施 (ラ・ティンタ市)

対象地域内外へジェンダー平等のメッセージを広げ、定着させていくため、トレーニングを受けた女子、男子、保護者やコミュニティリーダーなどの住民が中心となってキャンペーンを計画し、展開する。広報用ポスターを作成し、学校やコミュニティ集会所、診療所など人が多く集まる場所に掲示するなど、持続性があり、効果的な啓発活動とする。この活動にはトレーニングの受講者も深く関わる。また、啓発イベントの様子をメディア (地元ラジオやテレビ) に取り上げてもらい、地域住民に啓発メッセージを発信する。

	<p>【当初計画からの変更箇所】</p> <p>当初計画では、第 2 年次からラジオでジェンダー平等啓発メッセージを継続的に発信する予定だったが、継続的な発信は第 3 年次の実施に変更する。</p> <p>理由：2019 年 6 月の総選挙前後は選挙関連の広告・宣伝放送も多く、費用対効果の面から第 2 年次の実施は適切なタイミングではないと判断した。</p> <p>3. 学習環境の改善 (参考資料 3 第 2 年次建設対象校リスト 参照)</p> <p>3-1 対象 10 校の衛生設備（トイレ・手洗い場・多目的洗い場）建設／修繕（ラ・ティンタ市、チュクル市）</p> <p>女子が快適に利用できる衛生設備を整備する。教育省が指定するトイレ棟 1 棟に男女各 2 基と手洗い場と多目的洗い場を備えた設計を採用し、生徒 25 人に対して 1 基確保できることを目指す。第 2 年次は、衛生設備が生徒数に対して不足している対象校のうち、より緊急度が高い 4 校（両市で各 2 校）で合計 5 棟を建設する。</p> <p>第 1 年次同様に、建設業者の工事を監督および技術指導するためのエンジニアを配置し、常時モニタリングを行う。</p> <p>3-2 維持管理トレーニング（ラ・ティンタ市、チュクル市）</p> <p>整備した設備が適切に使用、維持管理されるよう、生徒と教師を対象にトレーニングを行う。学校が雇う清掃人や生徒会が中心となって清掃し、当事業で支給するゴミ箱やほうきなどの備品・消耗品を設備維持管理のために役立てる。</p> <p>ほうき等の消耗品購入費や修繕費などは PTA が拠出する維持管理予算を充当するなど、事業終了後も各校で設備が衛生的に維持管理されていく体制を整える。</p> <p>4. その他 (参考資料 3 トレーニングリスト 参照)</p> <p>4-2 事業関係者ワークショップ（ラ・ティンタ市、チュクル市）</p> <p>第 2 年次事業開始時に、現地教育担当官をはじめとする地方行政官、コミュニティリーダーの当事業への参加を促進し、より良い計画をつくることを目的に行う。当団体職員は、講師およびファシリテーターの役割を担う。ラ・ティンタ市においては、第 1 年次の活動成果の振り返りも含め、学びを第 2 年次に活かす。</p> <hr/> <p>裨益人口</p> <p>直接裨益者数：合計 4,395 人（対象 10 校の生徒、対象 2 市におけるトレーニング受講者、イベント参加者）</p> <p>間接裨益者数：合計 89,378 人（対象 2 市の全人口）</p>
--	---

<p>(6) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>1. コミュニティにおける能力強化</p> <p>成果：対象 10 コミュニティでジェンダー平等が促進される。</p> <p>指標：</p> <p>【チュクル市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子クラブのジェンダートレーニング受講者（以下「女子クラブ受講者」）の 80%が 10 回のジェンダートレーニングを修了する ・ 女子クラブ受講者の 80%がジェンダーについて理解し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる ・ 女子クラブ受講者の 80%が人生の目標を設定する ・ 教師の 80%が全てのジェンダートレーニング（6 回）を修了し、学校におけるジェンダー平等の定義 3 点を把握する ・ 男の子の 80%が全てのトレーニング（10 回）を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる ・ 保護者の 80%が全てのトレーニング（4 回）を修了し、女子クラブトレーニングへの参加をサポートする ・ 地方行政官の 80%が全てのトレーニング（3 回）を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる <p>【ラ・ティンタ市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方行政官の 80%が全てのトレーニング（2 回）を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる ・ ジェンダー指導者養成トレーニング受講者がジェンダー格差を改善するための提言書を地方政府に提出する <p>確認方法：トレーニング事後テスト、受講者リスト、受講者（女子）日記、教師、保護者、生徒からの聞き取り</p>
	<p>2. コミュニティ啓発活動</p> <p>成果：対象地域の行政官、教師、保護者が、ジェンダー平等を啓発するイベントに参加し、ジェンダーについて理解する。</p> <p>指標：</p> <p>【ラ・ティンタ市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェンダー平等促進員、コミュニティリーダーが全てのトレーニング（2 回）を修了する ・ ジェンダー平等促進のための啓発イベントが開催される ・ ジェンダー平等啓発メッセージがラジオを使って放送される <p>確認方法：受講者リスト、イベント計画、ラジオ放送記録など</p>
	<p>3. 学習環境の改善</p> <p>成果：対象 4 校において女子が快適に利用できる衛生設備が整備され、対象 10 校において設備が適切に使用、維持管理される。</p> <p>指標：</p> <p>【ラ・ティンタ市、チュクル市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象 4 校の衛生設備が建設・修繕される ・ 対象 4 校に通う女の子の 80%が学校の衛生環境の改善を実感する

	<ul style="list-style-type: none"> 対象 10 校の生徒の 80%が衛生設備の維持管理方法を知っている <p>確認方法：生徒からの聞き取り、トレーニング事後テスト、学校視察など</p>
(7) 持続発展性	<p>当事業は、地域住民の能力強化と有効な啓発活動を通して地域のジェンダー平等の促進を目指す。男子や男性を含む多くの住民がその重要性を理解し、意識と行動が変容することにより当事業の成果は持続することが期待できる。また当事業が開発・制作する教師向けジェンダートレーニングマニュアルは、事業終了後も対象地域や他の地域で活用され、その後のジェンダー平等促進に貢献する。</p> <p>衛生設備は、維持管理トレーニングを受けた教師と生徒が中心となり管理し、清掃用品等の消耗品購入費や修繕費は各校の維持管理費予算を充てて対応するなど、事業終了後も各校が責任を持って管理する。当事業対象地域は、プラン・インターナショナル・ジャパンとプラン・インターナショナル・グアテマラが連携し、10年以上にわたり地域開発活動を続けている地域である。コミュニティと良好な関係があり、当事業終了後も他の活動を継続する予定である。よって当事業の終了後、当団体によるモニタリングが可能である</p>

(ページ番号標記の上、ここでページを区切ってください)